

令和 8 年度
国分寺市市民アンケート調査
報 告 書

【概 要 版】

令和 8 年 8 月
国 分 寺 市

<調査の目的>

本調査は、市民の生活意識や市の施策に対する考えを把握し、国分寺市ビジョン実行計画における各施策の進捗管理の基礎資料にするとともに、市政運営のための貴重な情報として活用することを目的としています。

<調査の概要>

- 調査対象 令和8年3月1日現在、国分寺市に住民登録している満18歳以上の市民
- 対象人数 3,000人
- 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
(住民基本台帳に登録されている満18歳以上の在住者を、それぞれ世代ごとに6つに区分し抽出)
- 調査期間 令和8年4月1日(水)～4月30日(木)
ただし、令和8年5月8日(金)到着分までを有効回答とした。
- 調査方法 郵送回答またはインターネット回答
- 有効回答数 1,329件(回収率:44.3%)
※上記のうち、インターネットによる回答は725件

<報告書の表記>

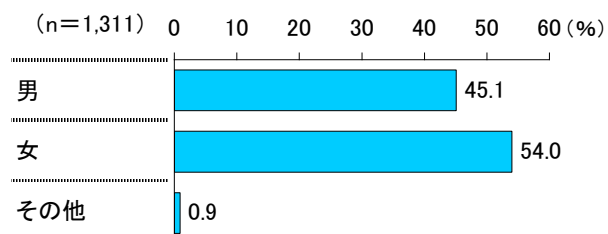
- 調査結果の回答比率はすべて百分率(%)で表しており、その質問の回答者数を基数として、百分率の小数点第2位を四捨五入して算出しています。このため、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超えます。
- 表グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表します。
- 属性別のクロス集計では、属性項目の無回答を除いて集計しているため、属性の各項目の「n」の合計が「全体」と一致しない場合があります。
- 「居住地域」は、『国分寺市都市計画マスタープラン』(平成28年2月)による「生活行動の実態に即した空間の広がり(圏域)や地形等の自然的条件、土地利用の状況等を考慮した5地域」に区分して集計分析を行っています。
- 統計数値を考察するにあたり、割合の表現をおおむね以下の表記としています。

例	表 現
19.5～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

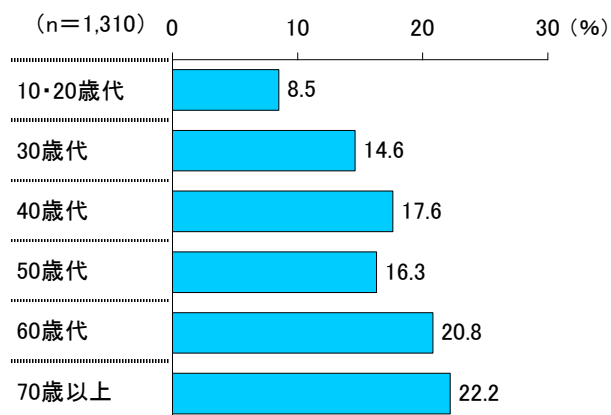
◇ 回答者の属性

(1) 性別・年齢

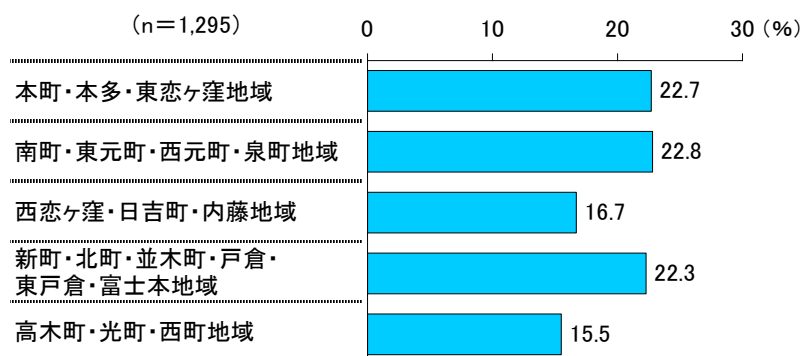
【性別】



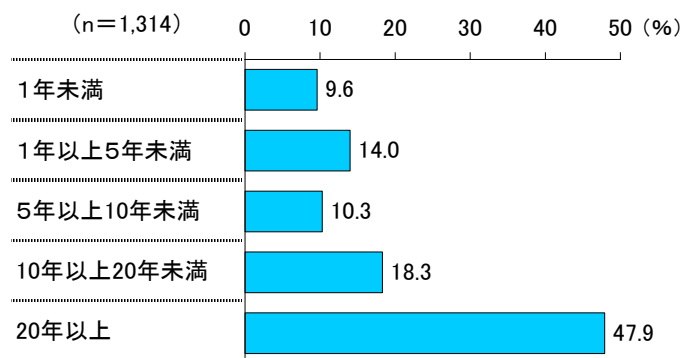
【年齢】



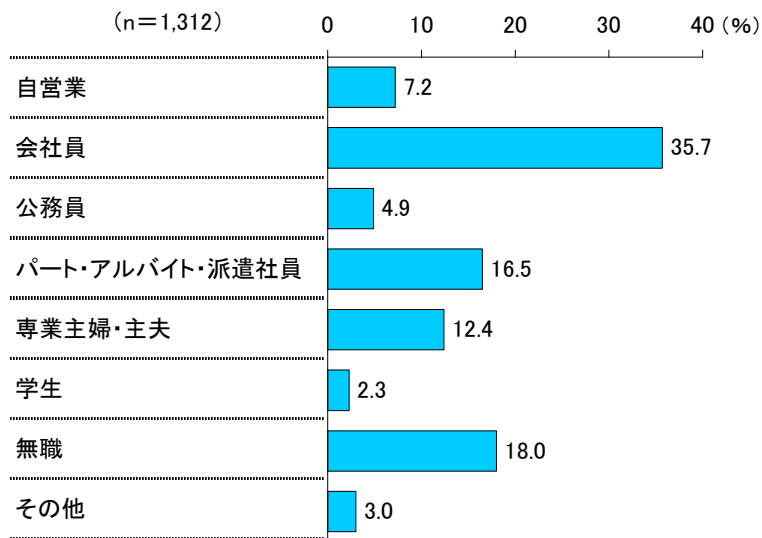
(2) 居住地



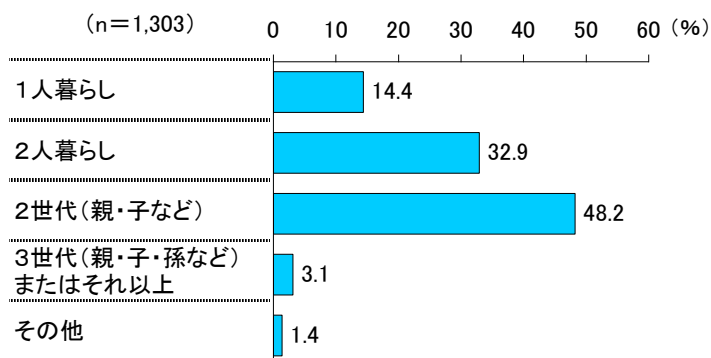
(3) 居住年数



(4) 職業

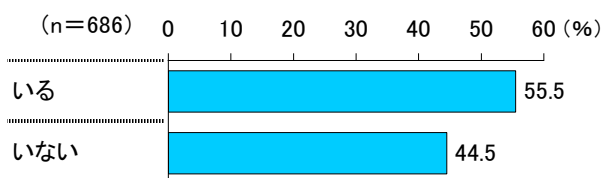


(5) 家族構成

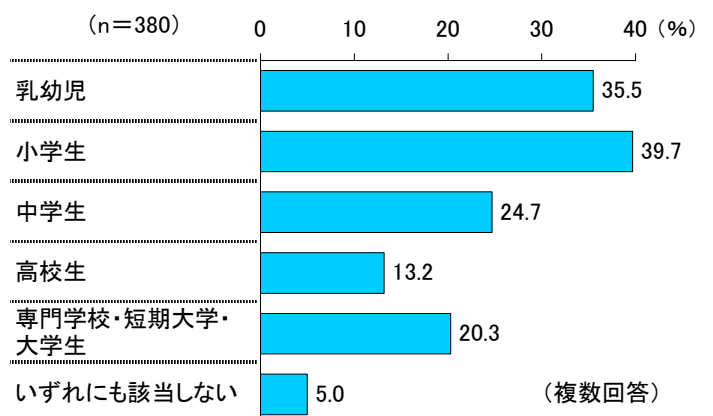


(6) 養育中の子どもの有無・段階

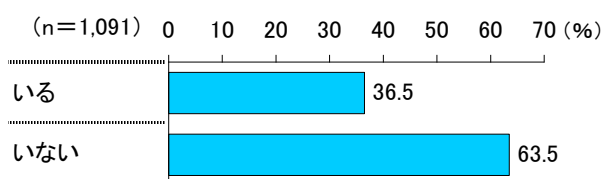
【養育中の子どもの有無】



【養育中の子どもの段階】



(7) 同居する65歳以上の家族の有無



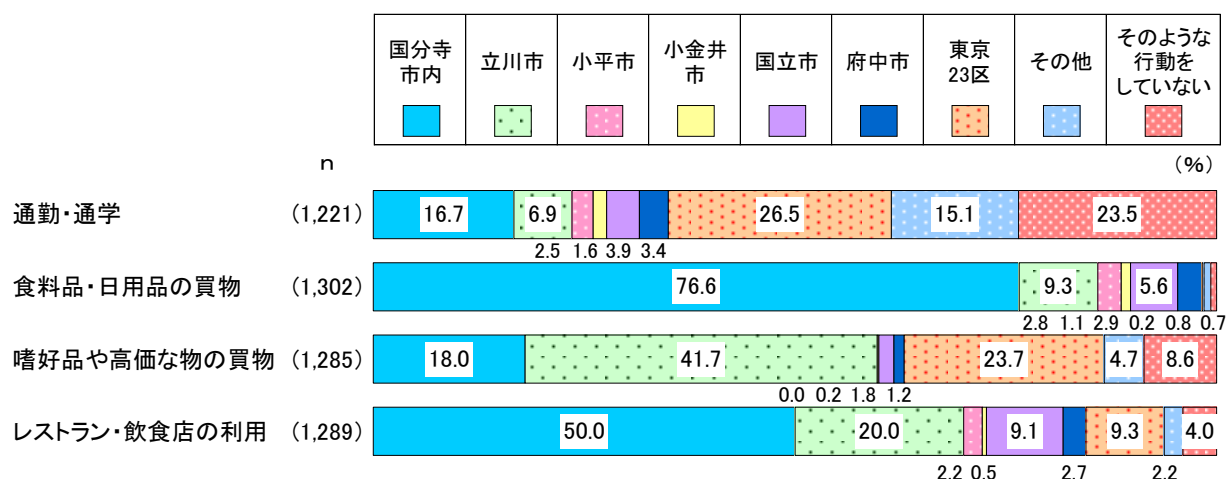
(8) 生活の行動範囲

通勤・通学での主な行き先は、「東京23区」(26.5%)が3割近くで最も高く、次いで「国分寺市内」(16.7%)、「その他」(15.1%)となっています。一方、「そのような行動をしていない」(23.5%)は2割を超えています。

食料品・日用品の買物での主な行き先は、「国分寺市内」(76.6%)が8割近くで最も高く、次いで「立川市」(9.3%)、「国立市」(5.6%)となっており、そのほかの項目ではいずれも3%未満と低くなっています。

嗜好品や高価な物の買物での主な行き先は、「立川市」(41.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「東京23区」(23.7%)、「国分寺市内」(18.0%)となっています。

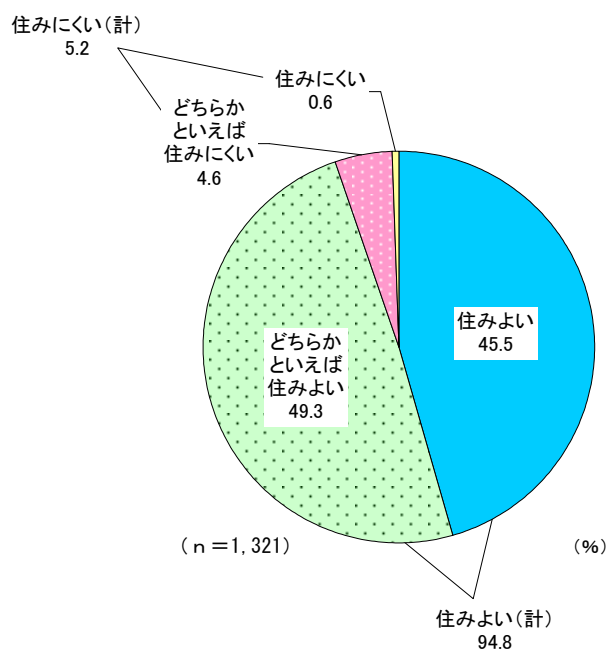
レストラン・飲食店の利用での主な行き先は、「国分寺市内」(50.0%)が5割で最も高く、次いで「立川市」(20.0%)、「東京23区」(9.3%)となっています。



◇ 住みやすさと定住意向

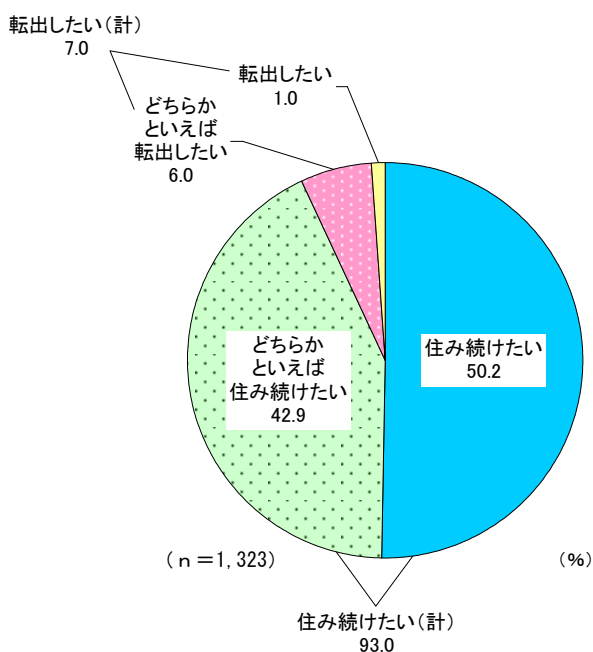
(1) 住みやすさ

住みやすさについては、「住みよい」(45.5%)と「どちらかといえば住みよい」(49.3%)を合わせた『住みよい(計)』(94.8%)は9割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.6%)と「住みにくい」(0.6%)を合わせた『住みにくい(計)』(5.2%)は1割未満となっています。



(2) 定住意向

定住意向については、「住み続けたい」(50.2%)と「どちらかといえば住み続けたい」(42.9%)を合わせた『住み続けたい(計)』(93.0%)は9割を超えています。一方、「どちらかといえば転出したい」(6.0%)と「転出したい」(1.0%)を合わせた『転出したい(計)』(7.0%)は1割未満となっています。

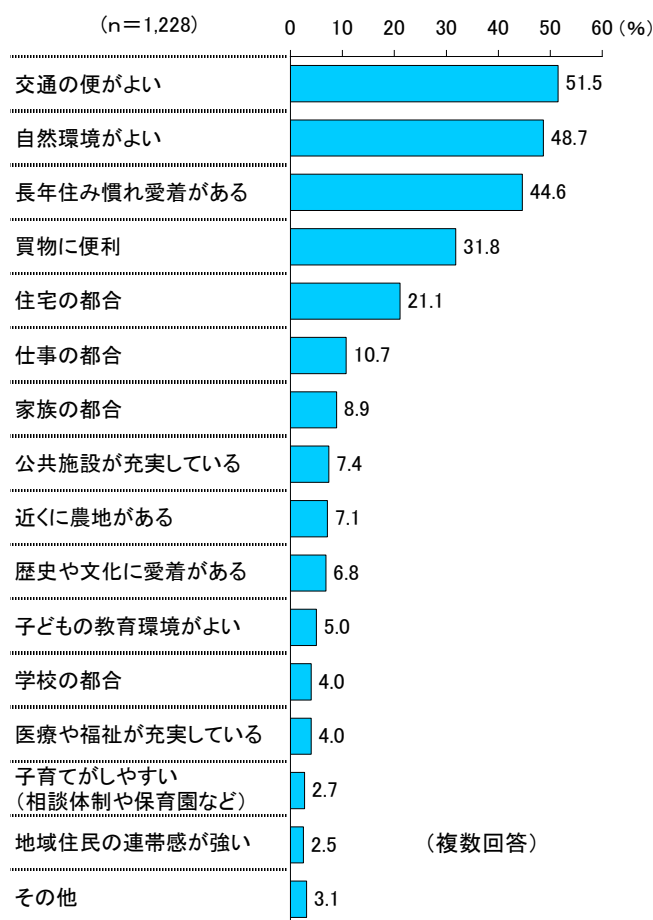


（３）住み続けたい理由／転出したい理由

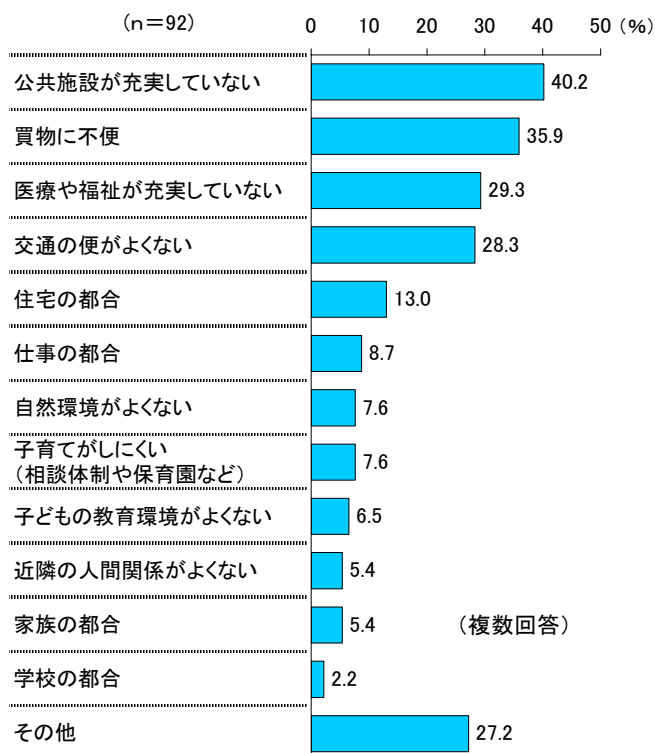
住み続けたい理由としては、「交通の便がよい」（51.5％）が５割を超えて最も高く、次いで「自然環境がよい」（48.7％）、「長年住み慣れ愛着がある」（44.6％）、「買物に便利」（31.8％）、「住宅の都合」（21.1％）となっています。

転出したい理由としては、「公共施設が充実していない」（40.2％）が４割で最も高く、次いで「買物に不便」（35.9％）、「医療や福祉が充実していない」（29.3％）、「交通の便がよい」（28.3％）となっています。

【住み続けたい理由】



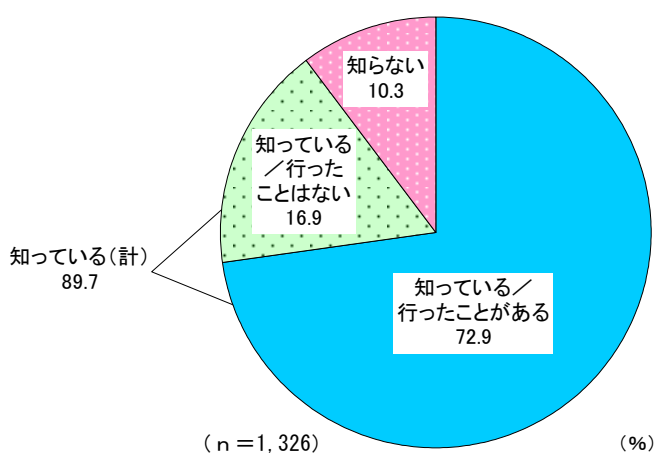
【転出したい理由】



◇ 日常生活

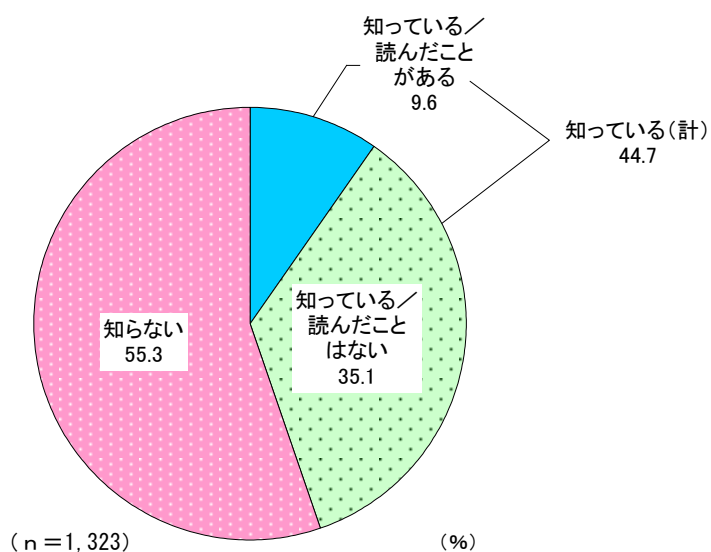
（１）史跡の認知度

史跡武蔵国分寺跡の認知度は、「知っている／行ったことがある」（72.9%）と「知っている／行ったことはない」（16.9%）を合わせた『知っている（計）』（89.7%）は9割となっています。一方、「知らない」（10.3%）は1割となっています。



（２）「国分寺市史」の認知度

「国分寺市史」の認知度は、「知っている／読んだことがある」（9.6%）と「知っている／読んだことはない」（35.1%）を合わせた『知っている（計）』（44.7%）は4割半ばとなっています。一方、「知らない」（55.3%）は5割半ばとなっています。



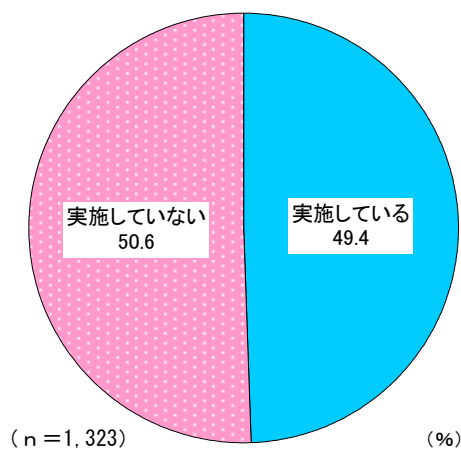
(3) 文化芸術活動や活動支援状況

過去1年間で行った文化芸術活動や活動支援は、「地域の伝統的な芸能や祭りへの参加」(6.4%)が最も高く、次いで「音楽、バレエ、ダンス、美術などの習い事の受講」(6.0%)、「音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など」(5.9%)となっています。一方、「何もしていない」(76.0%)は7割半ばとなっています。



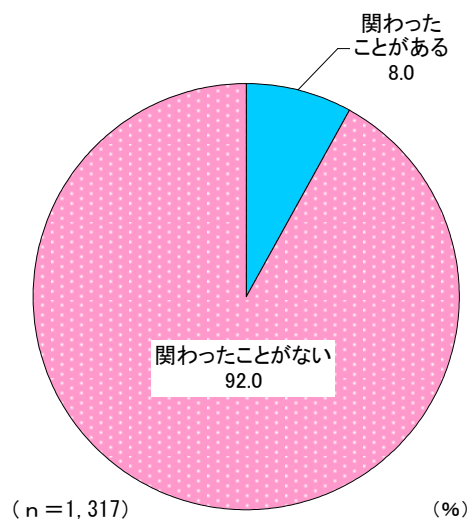
(4) スポーツの実施状況

週1回以上スポーツの実施状況は、「実施している」(49.4%)が約5割、「実施していない」(50.6%)は約5割となっています。



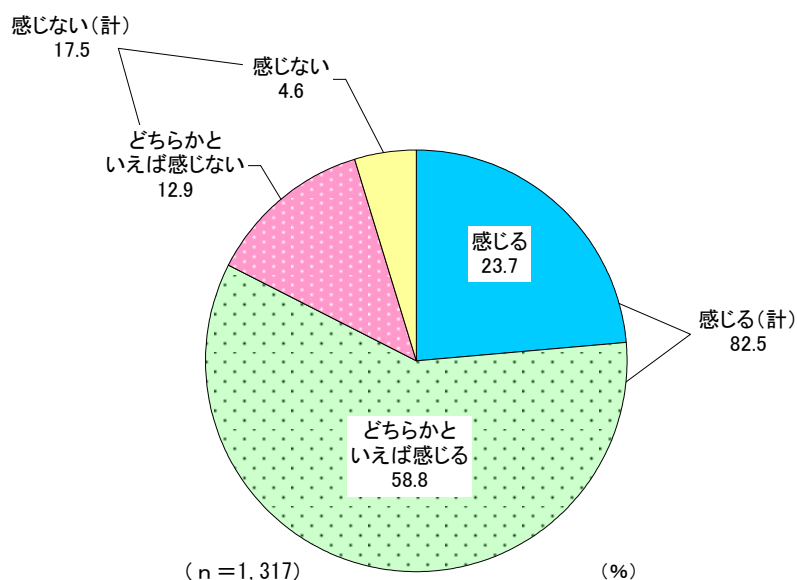
(5) 障害者スポーツへの関わり

障害者スポーツへの関わりは、「関わったことがある」(8.0%)が1割近く、「関わったことがない」(92.0%)は9割を超えています。



（６）愛着や誇り

国分寺のまちに対して愛着や誇りを感じるかについては、「感じる」(23.7%)と「どちらかといえば感じる」(58.8%)を合わせた『感じる(計)』(82.5%)は8割を超えています。一方、「どちらかといえば感じない」(12.9%)と「感じない」(4.6%)を合わせた『感じない(計)』(17.5%)は2割近くとなっています。

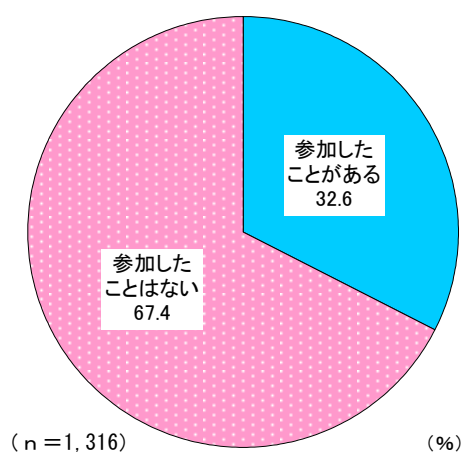


（７）自治会・地域交流イベント／地域活動

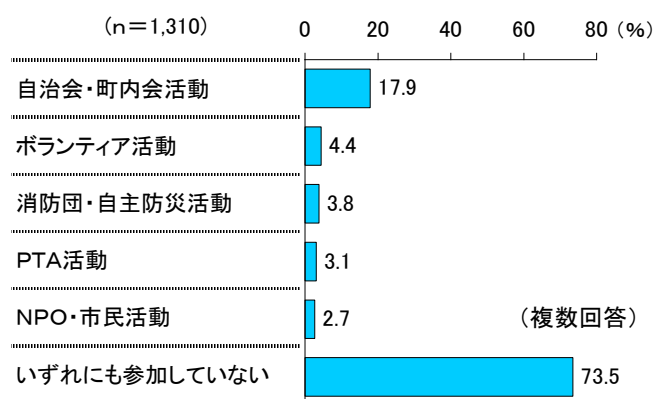
過去1年間の自治会・地域交流イベントへの参加状況は、「参加したことがある」(32.6%)が3割を超え、「参加したことはない」(67.4%)は7割近くとなっています。

過去1年間に参加したことがある地域活動は、「自治会・町内会活動」(17.9%)が2割近くで最も高く、次いで「ボランティア活動」(4.4%)、「消防団・自主防災活動」(3.8%)となっています。一方、「いずれにも参加していない」(73.5%)は7割を超えています。

【自治会・地域交流イベントへの参加状況】



【地域活動への参加】



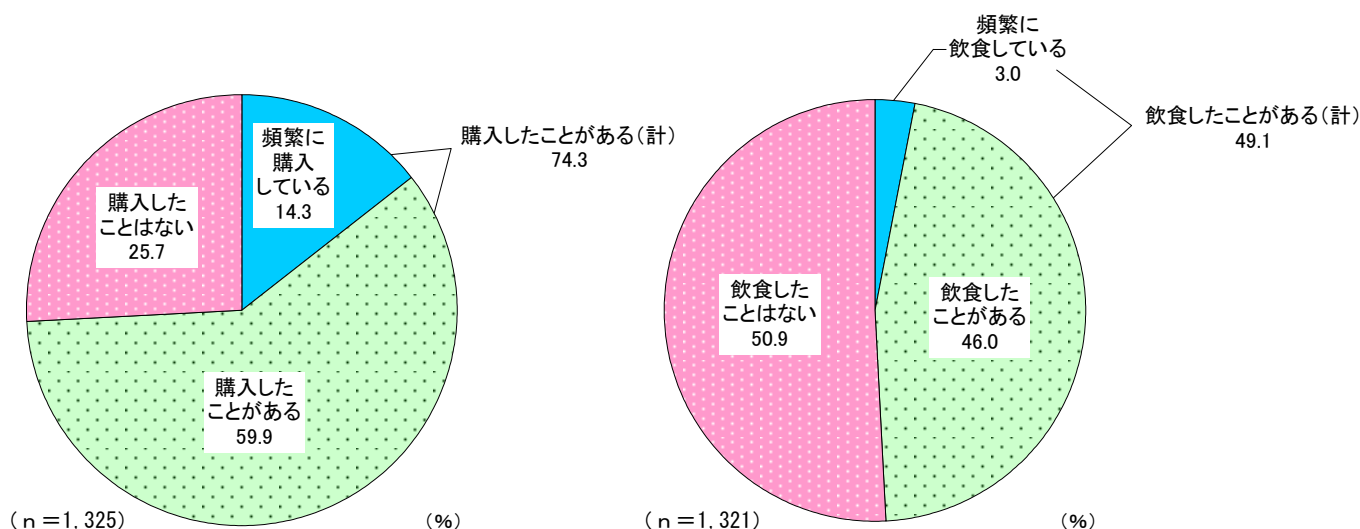
（８）こくベジ（市の地場産農畜産物）

こくベジ（市の地場産農畜産物）を購入したことがあるかについては、「頻繁に購入している」（14.3％）と「購入したことがある」（59.9％）を合わせた『購入したことがある（計）』（74.3％）は7割半ばとなっています。一方、「購入したことはない」（25.7％）は2割半ばとなっています。

こくベジを使ったメニューを飲食したことがあるかについては、「頻繁に飲食している」（3.0％）と「飲食したことがある」（46.0％）を合わせた『飲食したことがある（計）』（49.1％）は約5割となっています。一方、「飲食したことはない」（50.9％）は約5割となっています。

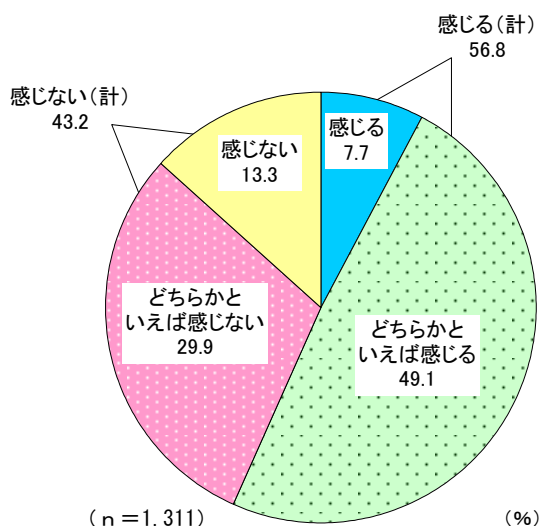
【こくベジ（市の地場産農畜産物）の購入】

【こくベジを使ったメニューの飲食】



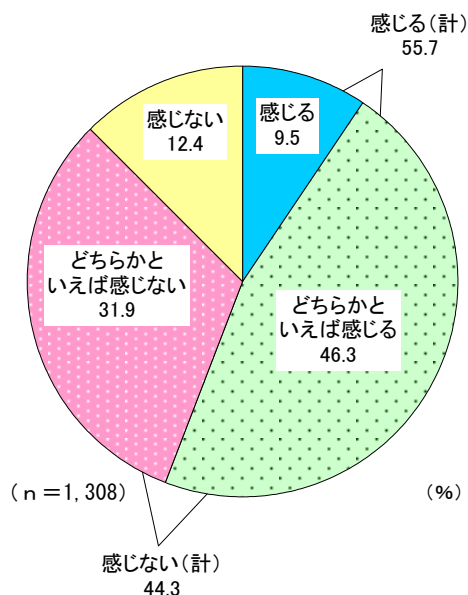
（９）市の人権尊重に対する実感

国分寺市が人権を大切にするまちだと感じるかは、「感じる」（7.7％）と「どちらかといえば感じる」（49.1％）を合わせた『感じる（計）』（56.8％）は6割近くとなっています。一方、「どちらかといえば感じない」（29.9％）と「感じない」（13.3％）を合わせた『感じない（計）』（43.2％）は4割を超えています。



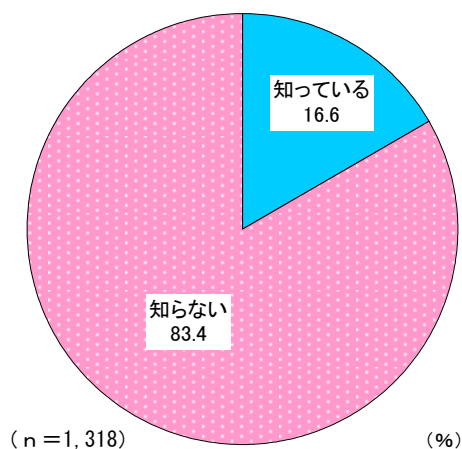
(10) 誰もが活躍できる環境づくりの推進

誰もが活躍できる環境づくりが推進されていると感じるかについては、「感じる」(9.5%)と「どちらかといえば感じる」(46.3%)を合わせた『感じる(計)』(55.7%)は5割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば感じない」(31.9%)と「感じない」(12.4%)を合わせた『感じない(計)』(44.3%)は4割半ばとなっています。



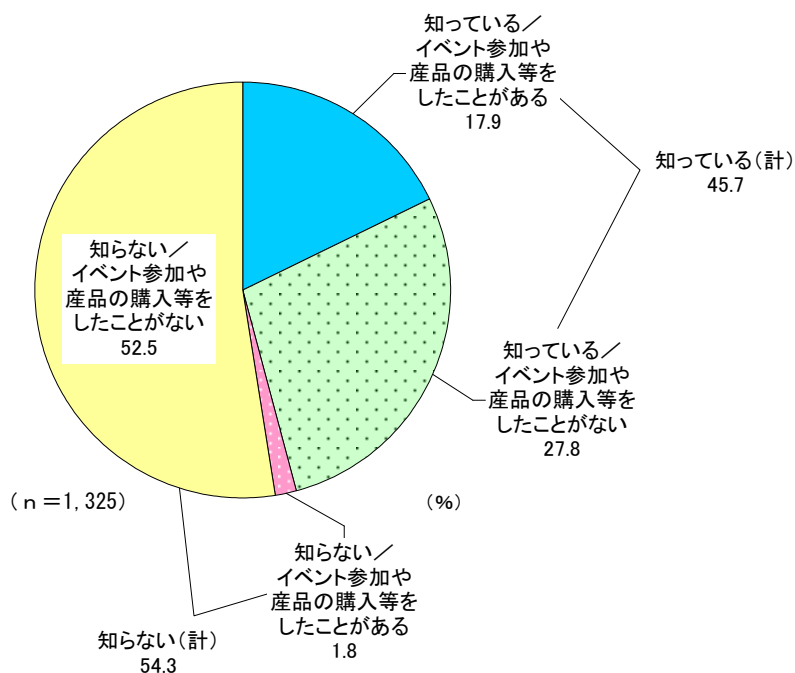
(11) 男女平等推進センターの認知度

男女平等推進センターの認知度は、「知っている」(16.6%)が2割近く、「知らない」(83.4%)は8割を超えています。



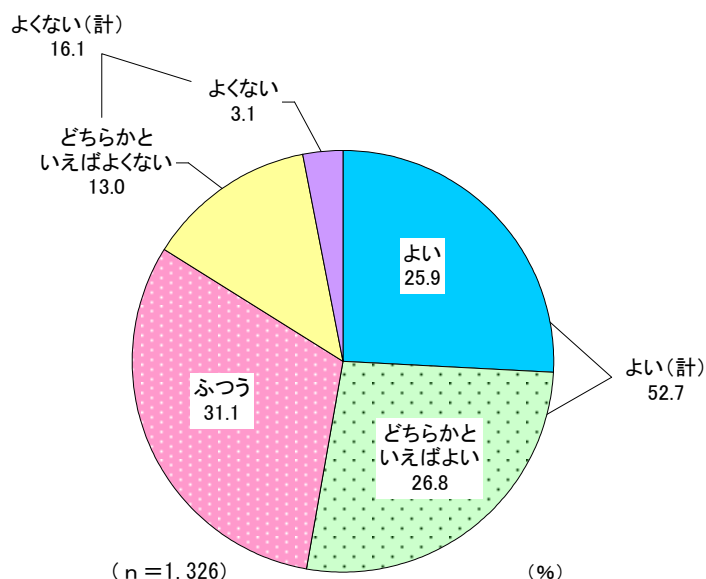
(12) 姉妹都市・友好都市の認知度

姉妹都市・友好都市の認知度は、「知っている／イベント参加や製品の購入等をしたことがある」(17.9%)と「知っている／イベント参加や製品の購入等をしたことがない」(27.8%)を合わせた姉妹都市・友好都市を『知っている(計)』(45.7%)は4割半ばとなっています。一方、「知らない／イベント参加や製品の購入等をしたことがある」(1.8%)と「知らない／イベント参加や製品の購入等をしたことがない」(52.5%)を合わせた姉妹都市・友好都市を『知らない(計)』(54.3%)は5割半ばとなっています。



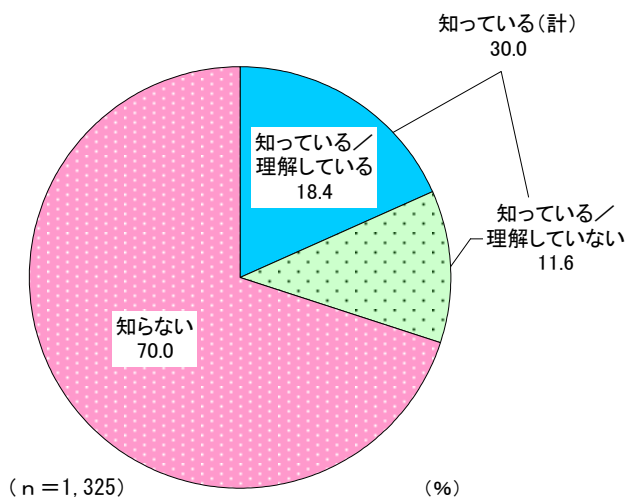
(13) 健康状態

現在の健康状態については、「よい」(25.9%)と「どちらかといえばよい」(26.8%)を合わせた『よい(計)』(52.7%)は5割を超えています。一方、「どちらかといえばよくない」(13.0%)と「よくない」(3.1%)を合わせた『よくない(計)』(16.1%)は1割半ばとなっています。また、「ふつう」(31.1%)は3割を超えています。



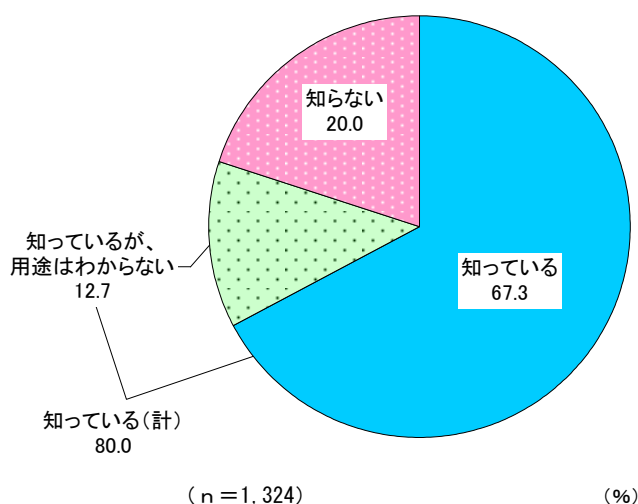
(14) 「合理的配慮の提供」の認知度

「合理的配慮の提供」の認知度は、「知っている／理解している」(18.4%)と「知っている／理解していない」(11.6%)を合わせた『知っている(計)』(30.0%)は3割となっています。一方、「知らない」(70.0%)は7割となっています。



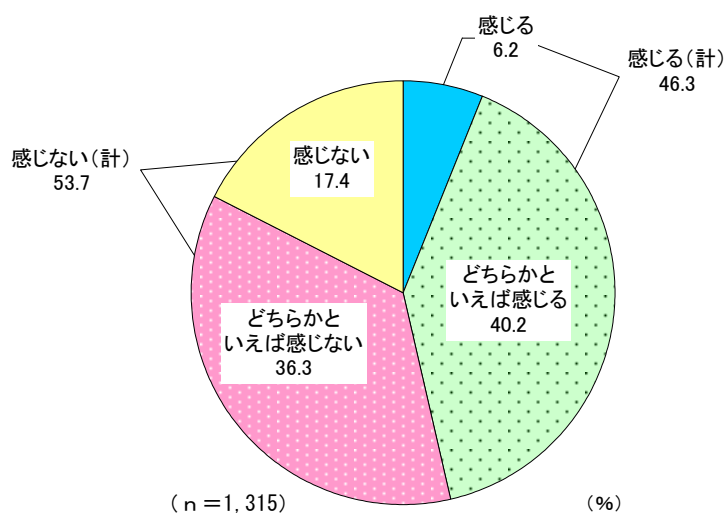
(15) ヘルプマークまたはヘルプカードの認知度

ヘルプマークまたはヘルプカードの認知度は、「知っている」(67.3%)と「知っているが、用途はわからない」(12.7%)を合わせた『知っている(計)』(80.0%)は8割となっています。一方、「知らない」(20.0%)は2割となっています。



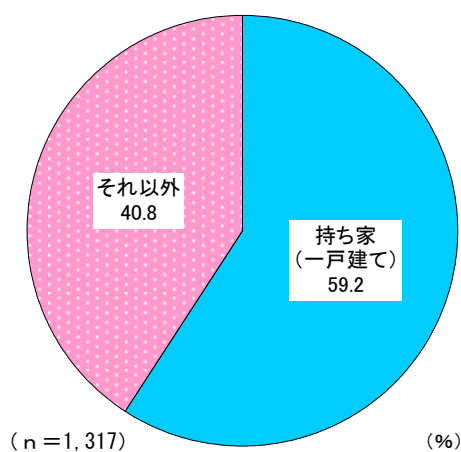
(16) 市内の自転車マナー

市内の自転車を利用する人の運転・駐輪マナーが守られていると感じるかについては、「感じる」(6.2%)と「どちらかといえば感じる」(40.2%)を合わせた『感じる(計)』(46.3%)は4割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば感じない」(36.3%)と「感じない」(17.4%)を合わせた『感じない(計)』(53.7%)は5割を超えています。



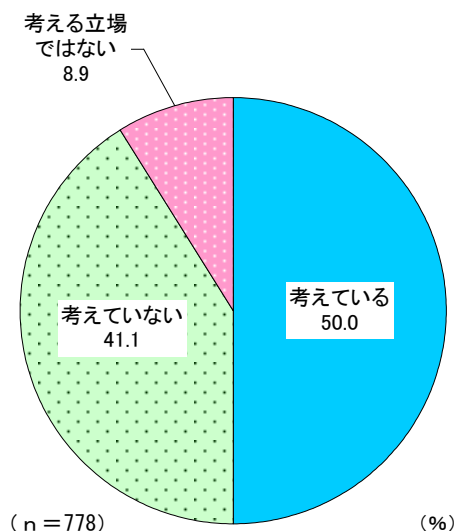
(17) 居住形態

居住形態は、「持ち家(一戸建て)」(59.2%)が約6割、「それ以外」(40.8%)は約4割となっています。



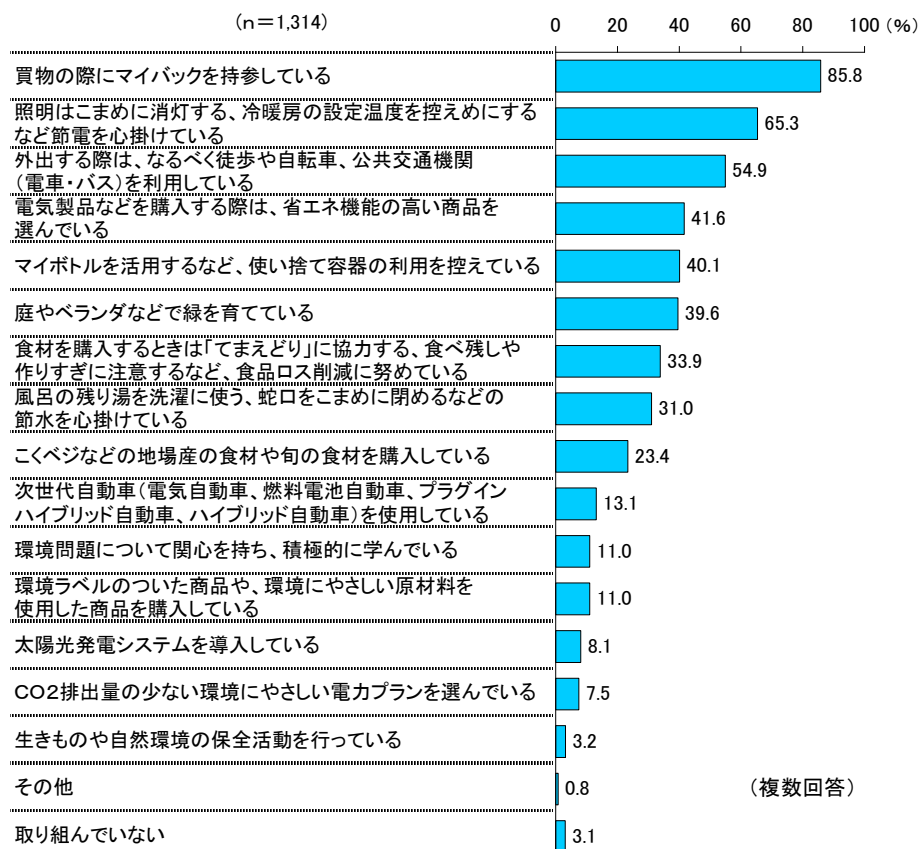
(18) 持ち家（一戸建て）の将来的な考え

持ち家（一戸建て）の将来的な考えは、「考えている」（50.0％）が5割、「考えていない」（41.1％）は4割を超えています。



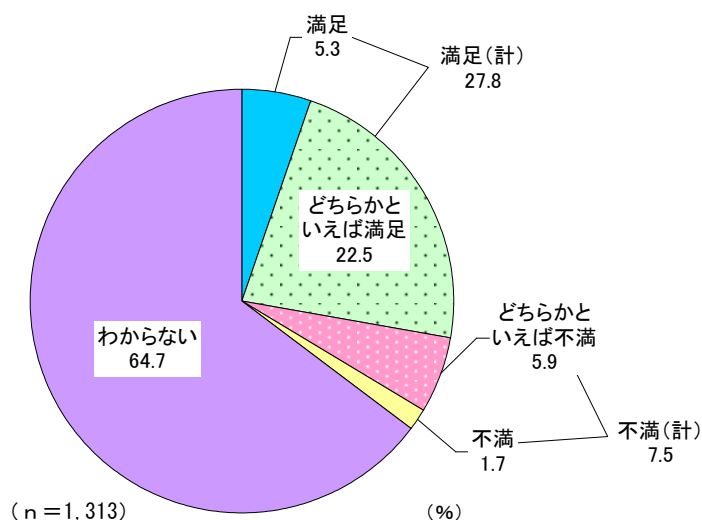
(19) 環境に配慮した行動

日常的に環境に配慮した行動に取り組んでいることは、「買物の際にマイバックを持参している」（85.8％）が8割半ばで最も高く、次いで「照明はこまめに消灯する、冷暖房の設定温度を控えめにするなど節電を心掛けている」（65.3％）、「外出する際は、なるべく徒歩や自転車、公共交通機関（電車・バス）を利用している」（54.9％）、「電気製品などを購入する際は、省エネ機能の高い商品を選んでいる」（41.6％）となっています。



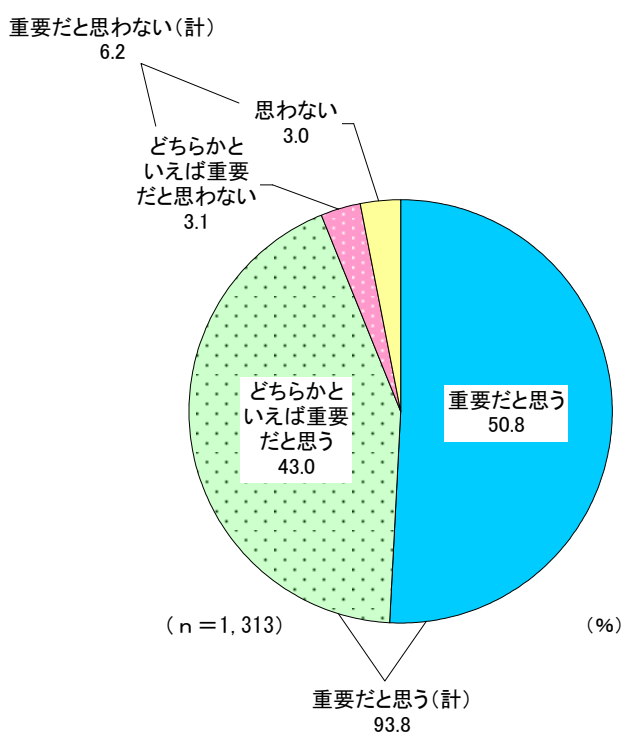
(20) 市が提供する環境を学ぶ機会についての満足度

市が提供する環境を学ぶ機会についての満足度は、「満足」(5.3%)と「どちらかといえば満足」(22.5%)を合わせた『満足(計)』(27.8%)は3割近くとなっています。一方、「どちらかといえば不満」(5.9%)と「不満」(1.7%)を合わせた『不満(計)』(7.5%)は1割近くとなっています。



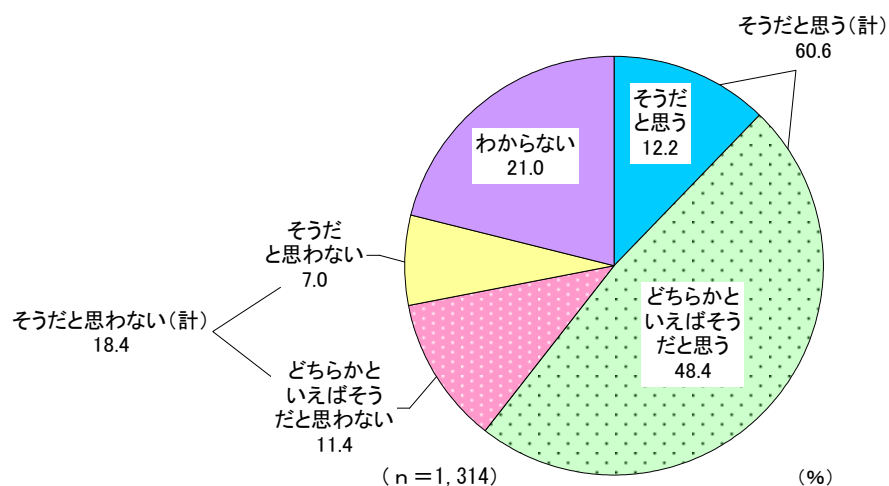
(21) 生物多様性の重要度

生物多様性の重要度は、「重要だと思う」(50.8%)と「どちらかといえば重要だと思う」(43.0%)を合わせた『重要だと思う(計)』(93.8%)は9割を超えています。一方、「どちらかといえば重要だと思わない」(3.1%)と「思わない」(3.0%)を合わせた『重要だと思わない(計)』(6.2%)は1割未満となっています。



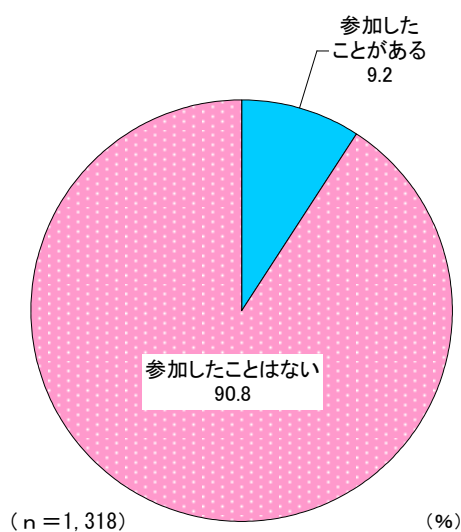
(22) 安全・安心な生活環境

市は公害が防止され、安全・安心な生活環境かどうかは、「そうだと思う」(12.2%)と「どちらかといえばそうだと思う」(48.4%)を合わせた『そうだと思う(計)』(60.6%)は約6割となっています。一方、「どちらかといえばそうだと思わない」(11.4%)と「そうだと思わない」(7.0%)を合わせた『そうだと思わない(計)』(18.4%)は2割近くとなっています。



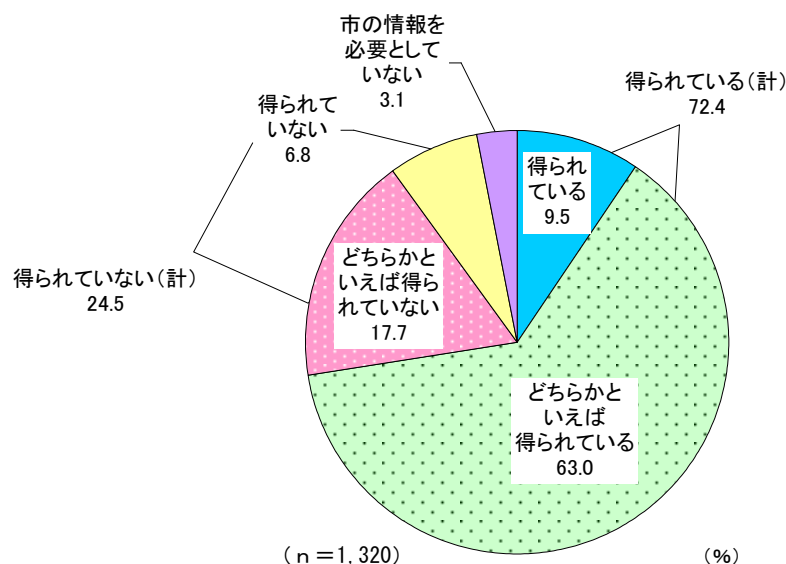
(23) 市が実施する附属機関等の会議等への参加経験

市が実施する附属機関等の会議、説明会、懇談会、市民ワークショップ、パブリック・コメント等に参加したことがあるかについては、「参加したことがある」(9.2%)が約1割、「参加したことはない」(90.8%)は約9割となっています。



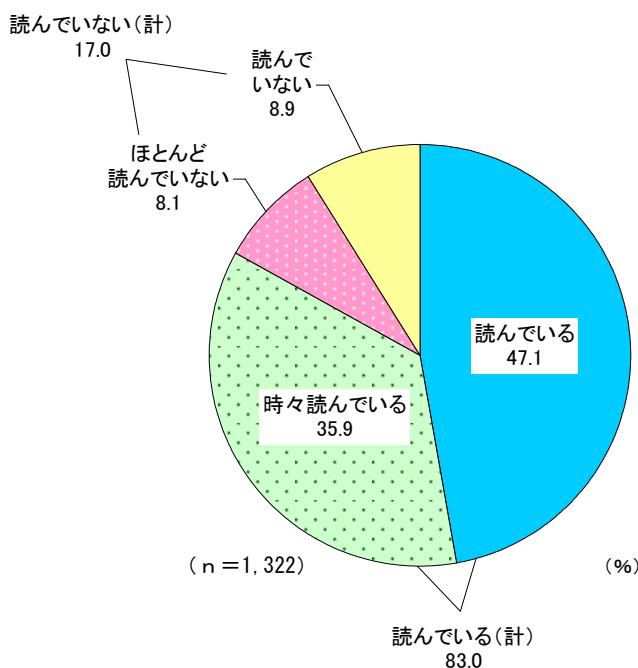
(24) 市の情報の入手状況

必要とする市の情報が得られているかについては、「得られている」(9.5%)と「どちらかといえば得られている」(63.0%)を合わせた『得られている(計)』(72.4%)は7割を超えています。一方、「どちらかといえば得られていない」(17.7%)と「得られていない」(6.8%)を合わせた『得られていない(計)』(24.5%)は2割半ばとなっています。また、「市の情報を必要としていない」(3.1%)は1割未満となっています。



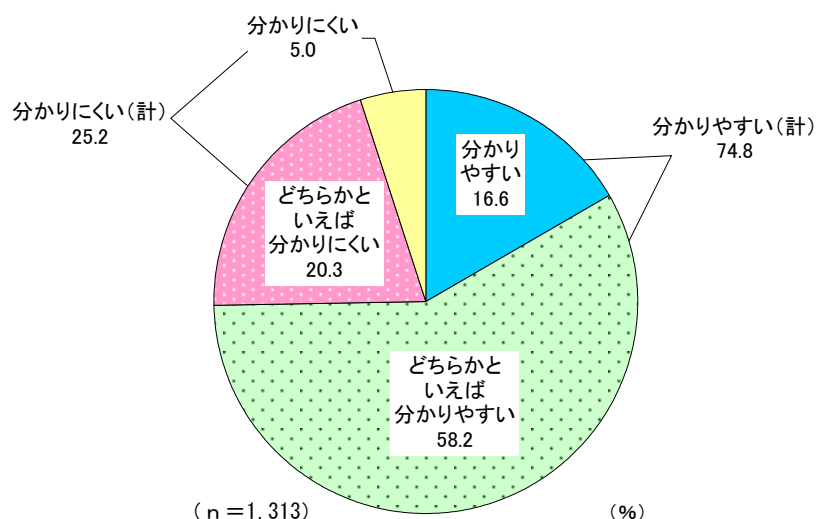
(25) 市報こくぶんじの閲読状況

市報こくぶんじの閲読状況は、「読んでいる」(47.1%)と「時々読んでいる」(35.9%)を合わせた『読んでいる(計)』(83.0%)は8割を超えています。一方、「ほとんど読んでいない」(8.1%)と「読んでいない」(8.9%)を合わせた『読んでいない(計)』(17.0%)は2割近くとなっています。



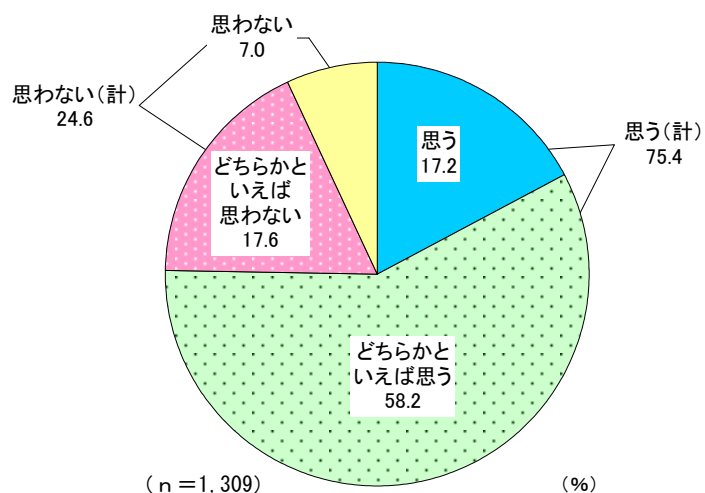
(26) 市が発信する情報の分かりやすさ

市が発信する情報の分かりやすさは、「分かりやすい」(16.6%)と「どちらかといえば分かりやすい」(58.2%)を合わせた『分かりやすい(計)』(74.8%)は7割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば分かりにくい」(20.3%)と「分かりにくい」(5.0%)を合わせた『分かりにくい(計)』(25.2%)は2割半ばとなっています。



(27) 市が提供する窓口サービスの利便性

市が提供する窓口サービスの利便性が向上しているかについては、「思う」(17.2%)と「どちらかといえば思う」(58.2%)を合わせた『思う(計)』(75.4%)は7割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば思わない」(17.6%)と「思わない」(7.0%)を合わせた『思わない(計)』(24.6%)は2割半ばとなっています。



◇ 取組への満足度・重要度

(1) 取組への満足度

31項目に分類した現在の市の取組について、満足度を算出したところ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足(計)』は、[公園・緑地整備](62.1%)が6割を超えて最も高く、次いで[循環型社会](60.7%)、[環境保全](58.2%)となっています。一方、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、[道路整備・交通安全](50.3%)が5割で最も高く、次いで[市街地整備](34.9%)、[公園・緑地整備](25.0%)となっており、道路・交通やまちの環境整備に関する不満が高い傾向にあります。



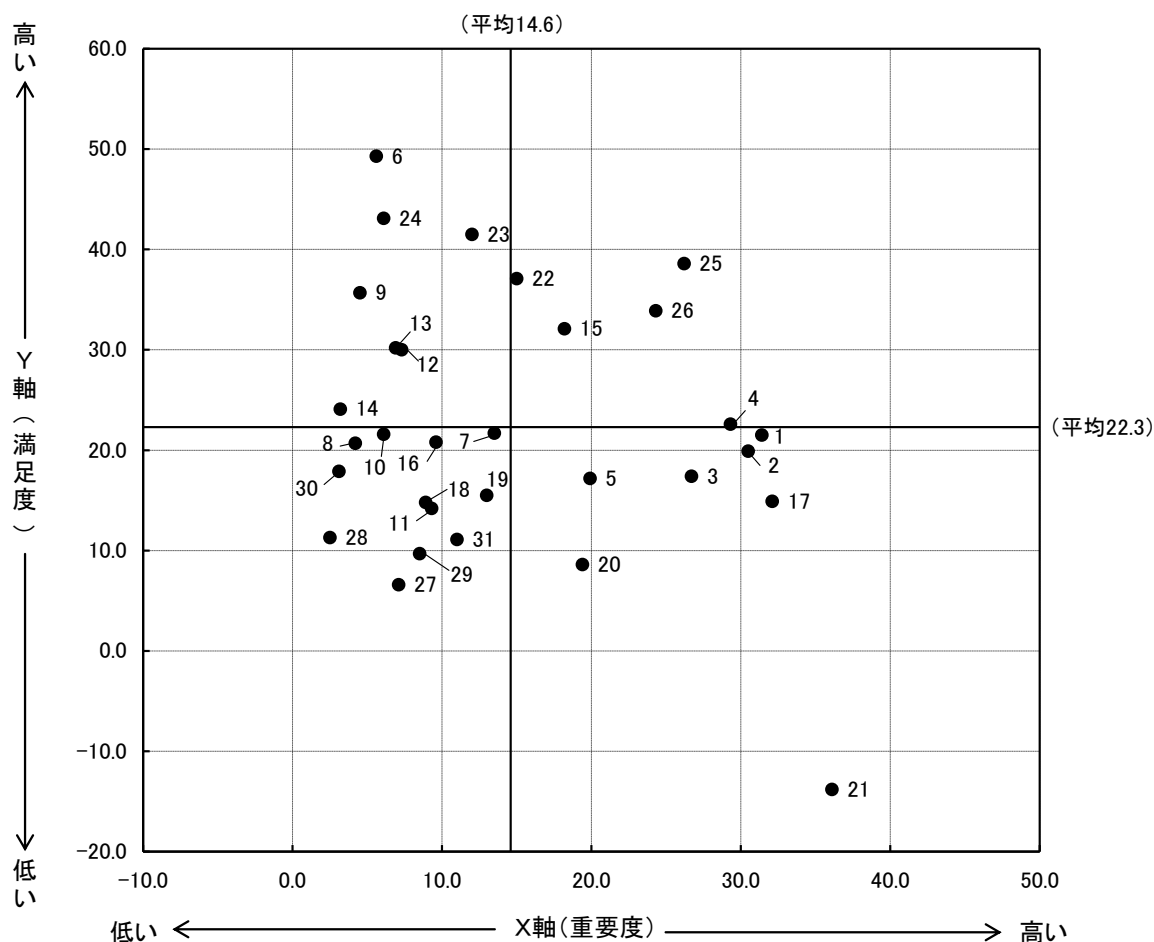
(2) 取組の重要度

31項目のうち重要だと思う取組は、[道路整備・交通安全] (36.1%) が3割半ばで最も高く、次いで[高齢福祉] (32.1%)、[切れ目のない子育て支援] (31.4%)、[子育て支援サービス] (30.5%) となっています。一方、重要度が低い取組では、[脱炭素] (2.5%) が最も低く、次いで[市民参加・協働・情報共有] (3.1%)、[多文化共生・都市間交流] (3.2%) となっています。



(3) 満足度・重要度分析図

満足度（『満足（計）』と『不満（計）』の差）と重要度をみると、回答者の満足度が低く重要度が高い項目は、[切れ目のない子育て支援]、[子育て支援サービス]、[子育て環境整備]、[教育環境整備]、[高齢福祉]、[市街地整備]、[道路整備・交通安全] となっています。



＜満足度高・重要度低＞		満足度	重要度
6	歴史	49.3	5.6
9	シティプロモーション	35.7	4.5
12	農業振興	30.0	7.3
13	人権・ジェンダー・平和	30.2	6.9
14	多文化共生・都市間交流	24.1	3.2
23	環境保全	41.5	12.0
24	循環型社会	43.1	6.1

＜満足度高・重要度高＞		満足度	重要度
4	学校教育	22.6	29.3
15	健康づくり	32.1	18.2
22	公園・緑地整備	37.1	15.0
25	防災	38.6	26.2
26	くらしの安全(防犯・消費生活)	33.9	24.3

＜満足度低・重要度低＞		満足度	重要度
7	文化芸術・スポーツ	21.7	13.5
8	社会教育	20.7	4.2
10	地域連携	21.6	6.1
11	商工振興・創業	14.2	9.3
16	地域福祉	20.8	9.6
18	障害福祉	14.8	8.9
19	生活福祉	15.5	13.0
27	デジタル化推進	6.6	7.1
28	脱炭素	11.3	2.5
29	公共施設マネジメント	9.7	8.5
30	市民参加・協働・情報共有	17.9	3.1
31	行財政運営	11.1	11.0

＜満足度低・重要度高＞		満足度	重要度
1	切れ目のない子育て支援	21.5	31.4
2	子育て支援サービス	19.9	30.5
3	子育て環境整備	17.4	26.7
5	教育環境整備	17.2	19.9
17	高齢福祉	14.9	32.1
20	市街地整備	8.6	19.4
21	道路整備・交通安全	-13.8	36.1

※満足度と重要度の高低は、31の施策の平均値（満足度は22.3、重要度は14.6）より高いか低いを表しています。

令和 8 年度国分寺市市民アンケート調査報告書
【概要版】

(令和 8 年 8 月)

- 発行 国分寺市
- 編集 国分寺市政策経営部 D X ・行政改革室
〒185-8501 東京都国分寺市泉町 2 - 2 - 18
電話：042-325-0111 (代表)
- 実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3 - 11 - 20
電話：03-3239-0071 (代表)